

### 第3章 前計画の評価と課題

#### 第1節 計画全体の評価と課題

「だれでもが安心して いきいきと暮らせる阿賀野市」を目指し、平成17年度から取り組んできた前計画について、平成22年度に中間評価を実施したところ、その時点で目標を達成した指標は55項目中8項目でした。

その後、一部の指標について目標値の見直し等を行い、取り組みを継続しました。平成26年度に最終評価を実施し、49項目について策定時の値（5項目については中間評価時の値）と平成26年度の値の間で比較し、5段階で評価しました。

目標を達成した項目が19項目（38.8%）、目標を達成しなかったものの改善した項目は8項目（16.3%）であり、やや改善されたものが7項目（14.3%）で、全体の約7割が改善しました。達成度が高いのは、「たばこ」、「身体活動・運動」「休養・こころ」「歯の健康」の順でした。

	評価区分	達成度	該当項目数
A	目標達成	90%以上	19項目
B	改善	50%以上 90%未満	8項目
C	やや改善	10%以上 50%未満	7項目
D	変わらない	-10%以上 10%未満	7項目
E	悪化	-10%未満	8項目
計 49項目 (A評価+B評価+C評価/49項目) =69.4%			

※達成度 = (現状値 - 策定時値) / (目標値 - 策定時値) × 100 (%)

分野ごとの到達状況 (単位：%)

栄養・食生活							
ライフステージ	指数	策定時値	中間値	現状値	目標値	目標値に対して	評価
		H17年度	H22年度	H26年度			
乳児期	母乳で育てている人の割合(0歳～2か月)	40.3	54.6	49.2	50.0	92%	A
学童・思春期～壮年期	朝食の欠食者の割合(10歳代)	16.4	21.1	16.1	0.0	2%	D
			小学生 1.1	6.1			
			中学生 2.5	9.0			
	朝食の欠食者の割合(20歳代)	33.6	32.9	33.7	15.0	-1%	D
	朝食の欠食者の割合(30歳代)	28.6	23.9	12.0	15.0	122%	A
	朝食の欠食者の割合(40歳代)	18.3	23.5	13.0	10.0	64%	B
学童・思春期～高齢期	食塩摂取量(成人)(g)	11.8	11.0	10.7	10.0	61%	B
	野菜料理を1食に2皿以上食べている人の割合	32.9	40.4	45.0	40.0	170%	A
	牛乳・ヨーグルト・チーズなどの乳製品を毎日食べている人の割合(10代)	53.5	43.5	31.0	70.0	-136%	E
			小中学生 100.0	100.0			
	牛乳・ヨーグルト・チーズなどの乳製品を毎日食べている人の割合(20代)	36.2	35.7	26.5	50.0	-70%	E
	牛乳・ヨーグルト・チーズなどの乳製品を毎日食べている人の割合(30代)	34.0	31.7	38.5	50.0	28%	C
	外食や食品を購入する際に栄養成分表示を参考にしている人の割合	17.2	43.0	51.5	25.0	440%	A
乳幼児期～高齢期	1日1回以上、週5日以上家族と一緒に食事をしている人の割合	67.0	63.5	70.1	80.0	24%	C
				小学生 94.4	96.7		
				中学生 92.8	88.9		
身体活動・運動							
ライフステージ	指数	策定時値	中間値	現状値	目標値	目標値に対して	評価
		H17年度	H22年度	H26年度			
学童・思春期～高齢期	意識的に運動を心がけている人の割合(男性)	44.9	41.5	53.4	55.0	84%	B
	意識的に運動を心がけている人の割合(女性)	37.1	35.6	41.5	45.0	56%	B
	運動習慣者の割合(1日30分以上、週2回、1年以上継続)(男性)	28.9	26.8	35.4	35.0	107%	A
	運動習慣者の割合(1日30分以上、週2回、1年以上継続)(女性)	21.1	19.2	23.8	30.0	30%	C
学童・思春期	テレビ・ゲーム視聴時間3時間以上の割合	50.0	53.6	小学校 平日 36.5 休日 69.6	減少傾向		A
				中学校 平日 53.7 休日 84.5			D
休養・こころの健康づくり							
ライフステージ	指数	策定時値	中間値	現状値	目標値	目標値に対して	評価
		H17年度	H22年度	H26年度			
学童・思春期～高齢期	ストレスを感じている人の割合	62.6	30.2	72.0	56.0	-142%	E
	ストレスをうまく解消する方法を持っている人の割合	50.5	51.3	56.8	56.0	115%	A
	睡眠による休養を充分にとれていない人の割合	40.6	33.4	31.4	35.0	164%	A
	気持ちを「ほっと」させてくれる人や場所のある割合	62.3	33.4	84.2	75.0	172%	A
	悩みを相談できる人をもっている人の割合		67.9	同居家族 80.0 以外 58.7	10%増		A
	児童虐待数の減少(件)	14	38	46	減少傾向		E
	自殺者の減少(人)	13	20	16	減少傾向		E

たばこ							
ライフステージ	指数	策定時値	中間値	現状値	目標値	目標値に対して	評価
		H17年度	H22年度	H26年度			
学童・思春期～高年齢期	たばこを吸っている人の割合	27.8	22.9	16.7	20.0	142%	A
	1日20本以上吸っている人の割合	59.6	46.3	51.2	50.0	88%	B
	未成年者の喫煙の割合	4.7	3.3	0.0	0.0	100%	A
	たばこを吸う際に家庭で分煙している人の割合	39.1	42.2	42.9	80.0	9%	C
アルコール							
ライフステージ	指数	策定時値	中間値	現状値	目標値	目標値に対して	評価
		H17年度	H22年度	H26年度			
青年期～高年齢期	1週間に7合以上飲む人の割合	23.6	19.6	20.8	20.0	78%	B
	未成年者の飲酒の割合		8.6	6.7	0.0	22%	C
歯の健康							
ライフステージ	指数	策定時値	中間値	現状値	目標値	目標値に対して	評価
		H17年度	H22年度	H26年度			
青年期～高年齢期	定期的に歯科健診を受けている人の割合	13.2	8.7	16.4	30.0	19%	C
乳幼児期	う歯のない児童の割合（3歳）	74.0	79.6	84.1	80.0	168%	A
	フッ化物歯面塗布を受けたことのある幼児の割合（1～4歳）	80.0	77.6	80.3	85.0	6%	D
	おやつ1日3回以上の割合（1歳6か月児と3歳児の歯科健診より）	—	28.6	16.3	減少傾向		A
学童・思春期	1人平均う歯数（12歳）（本）	0.92	0.77	0.51	0.80	342%	A
学童・思春期～高年齢期	歯間ブラシ（歯間部清掃用具）の使用割合	13.0	18.2	25.2	25.0	102%	A
	デンタルフロス（歯間部清掃用具）の使用割合	4.0	9.9	12.0	15.0	73%	D
生活習慣病							
ライフステージ	指数	策定時値	中間値	現状値	目標値	目標値に対して	評価
		H17年度	H22年度	H26年度			
学童・思春期～高年齢期	自分自身健康だと思う人の割合	56.6	57.6	82.4	65.0	307%	A
青年期～高年齢期	健（検）診受診の割合（市の申込に対して）	70.3	68.3	74.0	80.0	38%	C
幼児期～高年齢期	乳幼児・肥満度15%以上	5.0	3.7	4.2	減少		A
	小学生・肥満度20%以上	9.7	8.4	8.61	6.5	34%	C
	中学生・肥満度20%以上	13.0	9.7	8.08	6.5	76%	B
	20歳代やせの女性・BMI18未満		16.1	30.0	減少		E
	40歳未満の男性・BMI25以上	28.8	24.6	29.6	18.0	－7%	D
	40歳未満の女性・BMI25以上	12.2	8.5	10.8	10.0	64%	B
	40歳以上の男性・BMI25以上	20.7	22.2	25.9	13.0	－68%	E
高年齢期	40歳以上の女性・BMI25以上	25.4	23.1	20.6	20.0	89%	B
	元気老人の割合（65歳以上）	85.1	82.2	94.8	95.0	98%	A
青年期～高年齢期	元気老人の割合（75歳以上）	75.3	72.0	62.0	85.0	－137%	E
	脂質代謝異常者の割合	51.9	51.1	53.4	45.0	－22%	D
高年齢期	糖質代謝異常者の割合（血糖値）	—	48.6	34.9	45.0	381%	A

## 第2節 分野別の評価と課題

### 1) 栄養・食生活

【重点目標】「家族みんなでバランスのよい食事を楽しもう」

【これまでの取り組み・主な事業】

妊娠期からの各種教室・健康相談の開催、また、子育てメッセージを作成し、「テレビを消して家族でごはん」を重点に啓発してきました。

平成21年度には『阿賀野市食育推進計画』を作成し食生活改善推進委員や企業・学校等関係者と連携し推進してきました。

【現状・課題】

核家族化や生活環境の変化が、幼児・小学生・中学生の朝食摂取の低下に表れています。60歳代以上は食に対する関心が高い傾向にあります。

今後も朝食をしっかり食べ、主食、主菜、副菜のバランスのとれた食事により、元気に生活できる体づくり、栄養と食生活の重要性について継続して啓発していく必要があります。

### 2) 身体活動・運動

【重点目標】「若いころから運動習慣を身につけよう」

【これまでの取り組み・主な事業】

平成20年度から水中運動教室やシャキ！いき！健康法等を普及し、また平成24年度にはウォーキングマップを作成し運動普及員の育成を行いながら、手軽にどこでもできる運動普及に取り組んできました。

【現状・課題】

ウォーキングなど手軽にできる運動は、60歳代～70歳代を中心に普及してきましたが、働き盛り世代ではまだ浸透していないことが課題です。

今後も、自分にあった運動を見つけ無理なく継続できるように支援し、運動しやすい環境の整備をすすめていくことが重要だと考えています。

### 3) 休養・こころの健康づくり

【重点目標】「家族みんなで助け合い、ゆとりをもった生活を心がけよう」

【これまでの取り組み・主な事業】

こころの健康相談事業、講演会・講座など普及啓発、精神保健ボランティアの育成、関係機関との連携等に取り組んできました。

#### 【現状・課題】

社会情勢が目まぐるしく変化する中、社会的要因によるストレスの根本的な解消は難しいものがありますが、ストレスとうまくつきあう方法を紹介する講座・セミナーの実施や、不安や悩みを相談できる窓口を継続的に設置することが必要だと考えています。

#### 4) たばこ

【重点目標】「たばこから体を守ろう」

【これまでの取り組み・主な事業】

妊娠期からの禁煙相談、また、健康増進法による受動喫煙防止対策で公共施設の禁煙・分煙対策をすすめてきました。

【現状・課題】

習慣的な喫煙者は減少傾向にあり、公共施設の禁煙・分煙が進んでいるものの、若い女性の喫煙率が高いことや、「1日20本以上吸う」ヘビースモーカーの割合が減少していないことから、今後もより一層の受動喫煙の害についての普及啓発及び学童期からの禁煙教育等が重要だと考えています。

#### 5) アルコール

【重点目標】「お酒は適量にして、楽しく飲もう」

【これまでの取り組み・主な事業】

健康教育・健康相談・家庭訪問等で適正飲酒をすすめてきました。

【現状・課題】

飲酒が生活の中で生きがいになっている人も多いようですが、今後もお酒の害や適量を知り、楽しく飲むことについて継続的に指導・啓発していく必要があります。

#### 6) 歯の健康

【重点目標】「生涯自分の歯で食べられるようにしよう」

【これまでの取り組み・主な事業】

乳歯・永久歯のむし歯予防および歯周病予防対策として、歯科健診・フッ化物の応用、健康教育を実施してきました。

また、歯科医院での定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける習慣、歯間部清掃用具の使用をすすめてきました。

### 【現状・課題】

3歳児のむし歯がない割合が84.1%と目標に達した一方で、5歳児のむし歯がない子の割合は57.1%と減少し、むし歯が増える傾向にあるため、今後もフッ化物応用を中心としたむし歯予防対策並びに歯周病予防対策の充実を図り普及啓発をすすめる必要があります。

## 7) 生活習慣病

### 【重点目標】「健康に関心を持とう」

### 【これまでの取り組み・主な事業】

「年に1回は健診（一般／特定健診・がん検診）を受けよう」と受けやすい健診体制の確立、啓発活動に取り組み、健診結果から自身の生活習慣をふり返られるように、保健指導を実施してきました。

平成17年度より市内全中学校を対象とした「中学生生活習慣病予防事業」を開始し、平成18年度からは中学2年生に統一して取り組んでいます。

### 【現状・課題】

働く世代の生活スタイルの変化で、生活習慣病の背景が多様化しています。平成20年度から始まった特定健診・特定保健指導ではメタボリックシンドローム対策が主でしたが、今後は肥満者のみの保健指導だけではなく、疾病の発症予防、重症化予防に取り組んでいく必要があります。

また、夜型生活、野菜不足、長時間のメディア視聴といった中学生の生活が見られるため、今後も事後指導に力を入れ、若い頃からの生活習慣病予防に取り組んでいく必要があります。